

Ⅱ 事例集

1. 親の育ちを応援する学びの機会の充実

- ◆「親の学習」講座 ～ファシリテーターが中心となって進める参加体験型学習～
(埼玉県三郷市教育委員会青少年課、青少年育成市民会議) …… 63
- ◆子育て支援団体 ゆりかご ～学びの観点を重視した取組の展開～
(青森県三戸町役場住民福祉課) …… 64
- ◆地域で支えあう子育て
～人と人とのつながりが希望を生み子育てすることが未来へつながっていく～
(宮城県名取市家庭教育支援チームぼっぼはうす、NPO 法人子育て応援団ひよこ) …… 65
- ◆「本音でトーク！」
～出会い、語り合い、学び合い、支え合う学級懇談会を目指して～
(和歌山県教育委員会生涯学習課) …… 66
- ◆多様な場を活用した学習機会の提供とネットワーク
来て！見て！！しゃべって！！「親のための応援塾」
(京都府教育委員会、京都府PTA 協議会) …… 67
- ◆未来の親を育てよう 鳥取発！「赤ちゃん登校日」～“赤ちゃん力”が日本を変える～他
(鳥取県教育委員会家庭地域教育課、鳥取県福祉保健部、北栄町、県内の高等学校) …… 68

2. 親子と地域のつながりをつくる取組の推進

- ◆気軽な集い・語らいの場となるカフェ形式の交流の場
(山形県村山市教育委員会、NPO 法人ポポーの広場) …… 69
- ◆おやじの会のつながり「お父さんたちのネットワーク」
(宮城県お父さんたちのネットワーク) …… 70
- ◆コミュニティが育てる、子どもの夢が広がる学校
～コーディネーター部会がつなぐ学校・家庭・地域～
(東京都小平市小平第六小学校) …… 71

3. 支援のネットワークをつくる体制づくり

- ◆「だんぼの部屋」～学校のなかに誰でも気軽に立ち寄れる部屋をつくりました～
(新潟県南魚沼市家庭教育支援チーム) …… 72
- ◆～チームワーク、ネットワーク、フットワークを合い言葉に～
大洲子育てサポートそよ風(愛媛県大洲市家庭教育支援チーム) …… 73

- ◆「橘子育て応援隊」～民生委員・児童委員を中心につなぐ、切れ目のない支援～
（長崎県子ども政策局子ども未来課 橘小学校区家庭教育支援チーム） …………… 74
- ◆泉大津市における家庭教育支援活動
～教育支援センターを拠点に、要保護児童対策地域協議会とも連携した活動～
（大阪府泉大津市教育支援センター） …………… 75
- ◆学校生活における課題の見られる児童・生徒及びその保護者に対する支援の仕組みづくり
～教員と「家庭と子どもの支援員」の家庭訪問等によるアプローチ～
（東京都教育庁指導部・地域教育支援部生涯学習課） …………… 76
- ◆スクールソーシャルワーカーを中心に中学校区で見守るネットワーク
（大阪府茨木市教育委員会学校教育推進課） …………… 77
- ◆地域人材からスクールソーシャルワーカーに！
～スクールソーシャルワーカーがリーダーの家庭教育支援チーム～
（和歌山県湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」） …………… 78
- ◆若者の学びなおしと自立支援 ～学校からの切れ目ない支援ネットワーク～
（高知県教育委員会事務局生涯学習課） …………… 79
- ◆くまもと「親の学び」プログラム進行役養成講座とプログラムトレーナーの育成
（熊本県教育委員会社会教育課） …………… 80
- ◆全国の大学の連携による学習講座と認証制度
～「こどもパートナー」「こどもサポーター」になろう～
（一般社団法人 教育支援人材認証協会） …………… 81
- ◆孫育てガイドブック ～孫でマゴマゴしたときに読む本～
（岐阜県環境生活部少子化対策課） …………… 82
- ◆イクメンとイクジイの協働
～「笑っている父親」が社会を変える、「笑っているおじいちゃん」が社会を救う～
（NPO法人ファザーリングジャパン） …………… 83
- ◆企業のを家庭の教育に！ ～しがふぁみ（滋賀県家庭教育協力企業協定制度）～
（滋賀県教育委員会生涯学習課） …………… 84

4. 子どもから大人までの生活習慣づくり

- ◆生活習慣づくりの新しい展開
～生活習慣は、心や身体の成長と、学ぶ力、学習の基礎～
（仙台市教育委員会確かな学力育成室） …………… 85

1 親の育ちを応援する学びの機会の充実

(1) 親の育ちを応援する学習プログラムの充実

- ◆「親の学習」講座 ～ファシリテーターが中心となって進める参加体験型学習～
(埼玉県三郷市教育委員会青少年課、青少年育成市民会議)

○取組概要

- ・平成19年度に埼玉県が開発した「『親の学習』プログラム集」を活用し、三郷市青少年育成市民会議が中心となって実施。「座学」でなく、「参加型学習」を基本とし、小グループによる意見交換やロールプレイングなど体験的な学びを交えて楽しく学習を進める。
- ・ファシリテーターは埼玉県で研修を受け、資格を取得した「家庭教育アドバイザー」が担当。
- ・事前に教員等と打合せを行い、保護者や学校のニーズに合わせた独自のプログラムを作成。「親が親として育ち、力をつけるための学習」として乳幼児の保護者対象、小学校就学時健診時、小中高校生の保護者対象、親子合同講座を実施。近い将来親となる中学生・高校生を対象にした「親になるための学習」、さらに市民・教職員等対象など幅広く実施。

○効果・実績

- ・学習を通じて、親同士の交流やつながり、安心が生まれるとともに、家庭でのエピソードを語らうことで自分の子育てを振り返るなど、自然に学習ができています。
- ・乳幼児の保護者のよき相談相手、学校と保護者との潤滑油としての機能を果たしている。
- ・平成20年度からはじめ、6講座（ファシリテーター2名）から、平成21年度56講座（10名）、22年度101講座（15名）、23年度132講座（17名）と順調に拡大。



乳幼児対象講座



小学校就学時健診



小中学校保護者会



中高生対象講座

(2) 多様な場を活用した学習機会の提供

◆子育て支援団体 ゆりかご ～学びの観点を重視した取組の展開～

(青森県三戸町役場住民福祉課)

○取組概要

- ・子育てサポーターとして養成された方々が、ゆりかごのスタッフとなり、地域子育て支援拠点事業の委託を受け、親子の集いの場「のぼたん広場」を開催している。
- ・仲間づくりや交流の取組の中でも、学びの観点を重視した取組を展開している。

<子育て親育ち講座の例>

- ◇親と子が一緒にわらべうたを楽しむとともにコミュニケーションを図る。
- ◇安心して安全なおもちゃを仲立ちにして、親子や友達間のコミュニケーションを図る。
- ◇絵本の読み聞かせや手遊びなどを通して親子間の交流を深める。

そのほかにも、

- ・中高生のボランティアの「のぼたん広場」への受入
- ・支援者同士の交流やネットワーク形成のための研修
- ・ブログの開設によって、のぼたん広場へ参加できない子育て中の親へ、身近な子育て情報の提供などの取組も行っている。



伝承あそび わらべ唄



のぼたん広場 親子交流



絵本講座



学生による大型絵本の読み聞かせ

(2) 多様な場を活用した学習機会の提供

◆ 地域で支えあう子育て ～人と人とのつながりが希望を生み子育てすることが未来へつながっていく～
(宮城県名取市家庭教育支援チームぽっぽはうす、NPO 法人子育て応援団ひよこ)

○ 取組概要

- ・「親子が安心して集まれる場所をつくりたい」との思いから、身近なショッピングモールでの子育てサロンを実施
- ・親同士が交流しながら主体的に学ぶことのできる親学習プログラムを活用して、児童センター、公民館、PTA 行事等での講座を実施
- ・新入学児童の保護者を対象に、紙芝居を活用して、新入学家庭教育講座を実施
- ・ホームページを活用して、子育てこころのマップや新入学こころの準備マップの発行や家庭教育に関する情報を発信

○ 震災後の取組や効果

- ◇ 小中学校・公民館・地域と連携した「命の授業」
 - ・避難所となった中学校の生徒たちが、支援チーム員や地域の方々とのグループワークを通して改めて一人一人の命の尊さを見つめ直す機会を持つことができた。
 - ・今後の取組として子育てサロンの中での部活動を考えている。
- ◇ 乳幼児の保護者と地域とのつながり
 - ・子育てサロンや公民館講座で地元サークルとの交流の機会をさらに増やし、乳幼児の保護者と地域とのつながりづくりを支えることで、心の安定を図った。

《新入学家庭教育講座》
市内 11 小学校で開催
紙芝居で入学時の
不安解消！

《子育てサロンぽっぽはうす》
相談対応、仲間作り、
自主的な学びを促進
次世代支援者育成

《公民館・地域連携家庭教育講座》
民生委員・主任児童員と共催
地元サークルやボランティアと
コラボレーション

地域で支えあう子育て
家庭教育支援チームの活・動・紹・介

《親学習プログラム導入》
親同士の交流で自分の
問題点に気付く
PTA 行事や子育て講座で実施

《広報誌・ホームページ》
子育てマップや新入学
こころの準備マップ発行
家庭教育情報発信

《学校・公民館との連携》
地域住民参加型のワークショップ
命の授業や環境講座を
小中学校で実施



(2) 多様な場を活用した学習機会の提供

◆「本音でトーク！」～出会い、語り合い、学び合い、支え合う学級懇談会を目指して～
(和歌山県教育委員会生涯学習課)

○取組概要

- ・家庭教育資料「本音で、トーク！」を活用し、保育所・幼稚園、小学校での「学級懇談会」等の機会に、親と教員・保育士たちが、日頃の子どもの姿、エピソードを語り合う中で、「共同学習」を行う取組である。
- ・①「出会いのステージ（自己紹介）」、②「語り合い・学び合いのステージ（エピソードをだしながら課題を共有）」、③「支え合いのステージ（相互支援の関係をつくる）」といった「親育ちの3つのステージ」を通じて、親としての学び合い、育ち合いを応援する。
- ・県教育委員会主催「あったか子育て講座」においても、家庭教育資料「本音で、トーク！」を活用しながら、「聞いて話して！ウチの子育て！ママトーク」の時間を設定し、子育て中のお母さんと子育て経験者がお互いの子育てについて気軽に語り合う中で、受講者同士のつながりを一層深めている。



あったか子育て講座における「本音でトーク」の様子
“聞いて！話して！ウチの子育て！ママトーク”

子育てロードはまだまだ続きますが、「何度でもやり直せるよ」という市原先生の言葉が心に響きました。子どもに寄り添うこと、認めることを大切に、子どもと毎日を過ごしていきたいと思います。また、他のお母さんたちの話も色々聞けてよかったです。一時保育があったので、久しぶりに子どもと離れて、自分の時間が持てたのもよかったです。

～受講者のアンケートより～

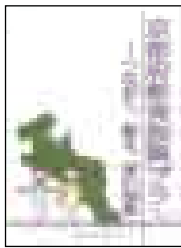


(2) 多様な場を活用した学習機会の提供

◆ 多様な場を活用した学習機会の提供とネットワーク

来て！見て！！しゃべって！！「親のための応援塾」（京都府教育委員会、京都府PTA協議会）

- ・ 就学前の子どもを持つ保護者が、在校生の保護者（PTA）とともに、子育てについて話し合い、交流を深める取組。
- ・ 各学校PTAごとに、給食試食会や学校探検、読書ボランティアとの「エンジョイ！親子読書」、地域の方とともに「通学路を一緒に歩こう！」などの取組を実施。
- ・ 先輩との「簡単朝ごはんづくり」や「グループ交流会」を通して、子育てについて感じることや幼稚園・保育所と変わる事などについて話し合い、「先輩の体験談を聞いて子どもの成長を信じようと思った」、「親同士が繋がると子育てに前向きになれる」等の効果が見られる。

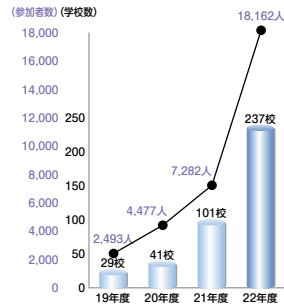


京都府ならではの家庭教育支援「親のための応援塾」
「親のための応援塾」とは、PTAが主体となって就学前の子どもを持つ保護者が先輩保護者とともに子育ての不安や悩みについて話し合い、交流を深め、保護者同士のネットワークづくりを進める京都府独自の取組です。

Point 1! 高い参加率

Point 2! 豊富な内容

就学時健康診断や入学説明会にあわせて開催することで参加者が増えています。



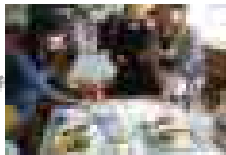
子育ての不安や悩みをいろいろな場で交流することができ、保護者同士のネットワークがひろがります。

- それぞれのPTAで工夫をこらして実施されています。
- ☆地域毎に分かれてのグループ交流
 - ☆給食を試食しながらの交流会
 - ☆朝食やお菓子づくり
 - ☆「こども110番のいえ」のスタンプラリー
 - ☆学校行事やPTA行事への参加
 - ☆読書ボランティアによる本の紹介

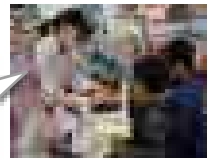
こども110番の家スタンプラリー

簡単朝食づくり

簡単朝食づくりを通してアツと言う間に知り合いになれ、活動を通して子育ての話もできます。

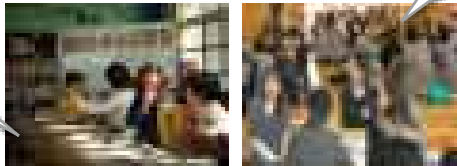


地域の方が協力者。地域・保護者がつながることで子どもたちは安心して過ごすことができます。



来た時は一人。でも帰りには「またね」とあいさつをかわすことができます。

先輩保護者との交流



Point 3!

参加者・主催者からの声
(H22の主催者アンケート結果より)

参加者の声

- ☆一人目の入学なので、不安が解消し、安心できた。
- ☆子どもとの関わりについて見つめ直す良い機会となった。
- ☆もっと交流の機会を作ってほしい。

主催者の声

- ☆保護者同士で子育てに関する会話が増えた。
- ☆PTA同士が支え合う活動の大切さを感じた。
- ☆自分が、誰かの役に立てて嬉しかった。

学校からも「在校生の保護者と新1年生の保護者とのつながりができた。」や、「保護者が自分の子育てを振り返る機会となった。」などの声をいただいています。

(3) 将来親になる中高生の子育て理解学習の推進

- ◆ 未来の親を育てよう 鳥取発！「赤ちゃん登校日」～“赤ちゃん力”が日本を変える～他
(鳥取県教育委員会家庭地域教育課、鳥取県福祉保健部、北栄町、県内の高等学校)

赤ちゃん登校日 (小・中学校)

- ・ 赤ちゃんとその両親等が学校を訪問し、児童生徒と継続して関わり体験をもちながら、赤ちゃんの成長や命の尊さ、コミュニケーション（お互いの考えや気持ちを理解し合うこと）を学ぶ。
 - ・ 人間関係力を学ぶ「赤ちゃん登校日」指導者養成講座を、NPOに委託し実施
- <主な内容>「赤ちゃん登校日」の理解とコミュニケーションを学ぶ（3回）
実地研修（事前学習×2と赤ちゃんとの関わり体験22回）、乳児健診の実地研修

中学生ボランティア活動

中学生ボランティアが、事前に選書と読み聞かせ方の学習をした上で、小学校や幼稚園に出向き、「朝の読書」の時間に読み聞かせを行う。

未来のパパママ育み事業 (高等学校)

出産や子育てに直接携わる助産師が高校に出向き、命の大切さと次世代に命をつなぐための心構えを伝える。高校生は、結婚・妊娠・子育て等に関する知識・情報を得て、自分のライフプランを描き、将来親となる自覚と子育てへの関心・理解を深める。

保育体験 (高等学校)

家庭科の授業や部活動など、様々な機会を捉え、副読本や保育体験を通して、未来の親となるための理解促進や、不足しがちな生徒の社会性、コミュニケーション能力、キャリア意識の育成などの豊かな人間性の育成を図る。



2 親子と地域のつながりをつくる取組の推進

(1) 家庭を開き、地域とのつながりをつくる

◆ 気軽な集い・語らいの場となるカフェ形式の交流の場

(山形県村山市教育委員会、NPO法人ポポーの広場)

○ カフェ形式の語り場の設立

- ・平成19年度に、地域ぐるみで子育て家庭を支援しようと、子育て応援団を立ち上げた。
- ・子育て応援団から、市家庭教育推進協議会の下で支援チームとなった。それを機に、親たちが気軽に集い語り合える場を作ろうと取り組んできた。親たちをさり気なく適切にサポートするには、親子が足を運びたくなる楽しい語り場として「カフェ」が望ましいと考えた。
- ・親子と支援者がふれあう「カフェ」を定期的開催しながら、いつか常設の「ひろば」を運営したいという思いがチーム全体に強まった。

○ ひろばの運営 (NPO法人格を取得)

- ・平成22年に、村山市は新設の「親子交流ひろば」を民間に委託することを決めた。協議会解散後、任意団体として独自に活動をしようと考えていたポポーのひろばは、NPO法人となり、念願の「ひろば」を運営することになった。支援チームであった時からの「子育て家庭に『ふれあい』と『学び』の機会を提供する」という目的はそのままに、「よりよい子育て環境の実現に向けて」という一回り大きな目的を加えて、自主企画も積極的に行っている。

○ 取組例や効果

- ・母子だけのキャンプと、父子だけのキャンプを別々に行い、母性と父性の違いを知って互いに思い合った。地域や学生のボランティアがサポートし、感謝し合う場面も数多かった。
- ・子育て応援団は「くるみの会」として、ポポーのひろばの活動をサポートしている。



世代間交流カフェ



22年からは「親子交流ひろば」に



母子だけのママチル・キャンプ



父子だけのパパチル・キャンプ

(1) 家庭を開き、地域とのつながりをつくる

◆おやじの会のつながり「お父さんたちのネットワーク」

(宮城県お父さんたちのネットワーク)

○取組概要

- ・各地で父親グループが立ち上がる中、平成10年、「お父さんの背中のように幅広い、やわらかいネットワーク」を目指し、仙台市内のグループを中心に「お父さんたちのネットワーク」が誕生。平成15年、市内から宮城県内へ、平成18年には行政とも連携したフォーラムを開催し、東北各県へもネットワークを広げる。
- ・拘束のない「この指とまれ」、「いつでもドアおーぷん」方式、会則をつくらず、決定権や責任は企画参加者全員が持ち、活動資金もその度負担するなどの「やわらかい組織づくり」により、10年以上にわたって持続的な活動を行っている。
- ・子どもとのコミュニケーションを1、2年ではなく10年、20年、「昔楽しかったから」と先輩がお父さんとなって帰ってくる組織づくり、「誰かが一生懸命頑張って支えるより、誰でも一生懸命に慣れるグループづくり」を目指す。

○震災後の取組

- ・東日本大震災でも、日頃のつながりからの被災地のおやじの会の呼びかけにより、岩手県・宮城県沿岸の学校支援活動を展開。
- ・文部科学省主催、宮城県・仙台市教育委員会共催の第3回全国家庭教育支援研究協議会に協力団体として参画し、「子どもたちを育むコミュニティの担い手とネットワーク」というテーマで分科会を企画・運営するとともに、寺岡おやじの会の「寺山オレンジジャグバンドと子どもたち」がオープニングイベントを披露した。

～寺岡おやじの会（宮城県仙台市）～

- ・寺岡小学校に拠点を置き、児童の父親達を中心とした地域活動奉仕グループ
- ・次代を担う子供たちとのふれ合いと、父親相互の交流を通して、地域の良さを実感できる新たなふるさとづくりをめざし、春のハイキング、夏のキャンプ・学校に泊まる会、秋のスポーツイベント、冬の歩くスキーなど年4会の主催行事の他、地元夏祭り、学校や児童センターのイベント支援、おやじと子どもたちからなる「ジャグバンド」をはじめとする8つのクラブ活動等を実施。



第3回全国家庭教育支援研究協議会に参画

(2) 学校、家庭、地域の連携した活動の促進

◆コミュニティが育てる、子どもの夢が広がる学校

～コーディネーター部会がつなぐ学校・家庭・地域～（東京都小平市小平第六小学校）

○取組概要

- ・小平第六小学校では、保護者と元保護者からなる「コーディネーター部会」が中心となり、保護者・地域のニーズを吸い上げたり、ボランティアへの「登録カード」を作成し、学校とボランティアのパイプ役として活動。
- ・現在、「学習支援ボランティア」「ふれあい安全ボランティア」「図書ボランティア」「クラブ活動ボランティア」などの各種活動を展開。
- ・東京学芸大や白梅学園大学など近隣の大学とも連携し、学生ボランティアも参画。

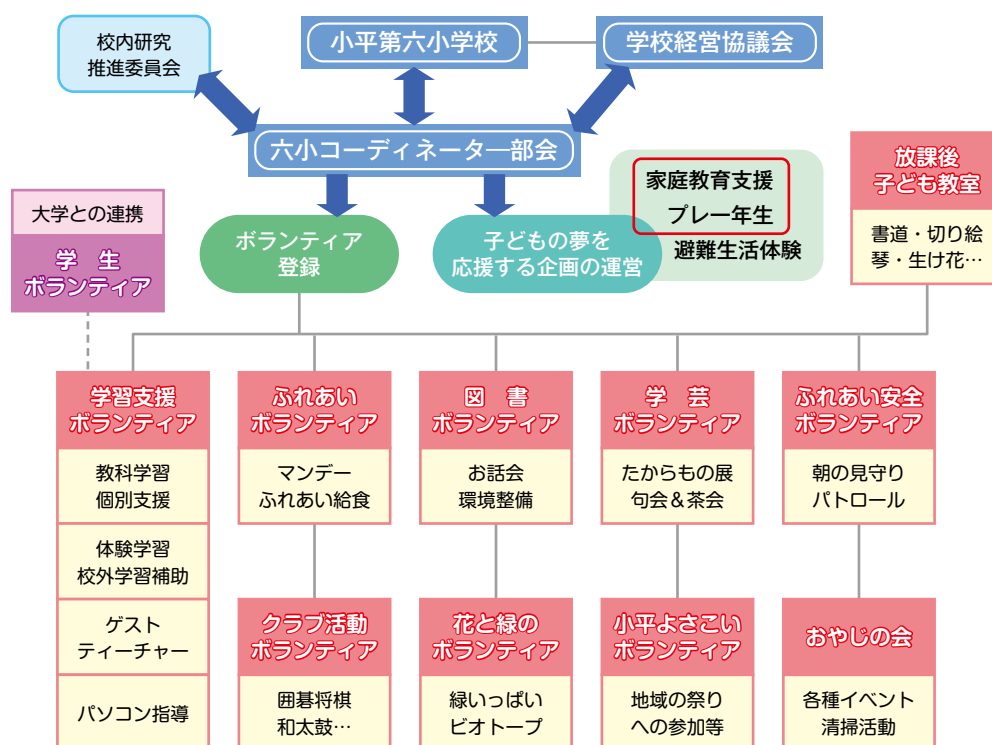
～コーディネーター部会の発案による家庭教育支援活動～

<プレ1年生>

- ・小1プロブレムを少しでも緩和させたい、親子の不安を取り除きたいとの願いから、新一年生となる親子を対象に、子どもは現一年担任による模擬授業を受け、学習の楽しさやルール、マナーを学び、その間保護者には、コーディネーター部会の寸劇や校長先生との意見交換を実施。

<保護者向け相談会>

- ・不登校などの課題を抱える保護者向けの少人数相談会として、スクールカウンセラーと連携して、不登校を経験した保護者と参加者の懇談等を実施。



3 支援のネットワークをつくる体制づくり

(1) 地域人材による家庭教育支援チーム型支援

- ◆ 「だんぼの部屋」～学校のなかに誰でも気軽に立ち寄れる部屋をつくりました～
(新潟県南魚沼市家庭教育支援チーム)

< 構成員 >

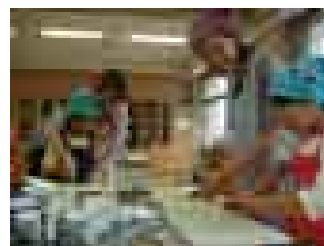
家庭教育サポーター（民生児童委員等）、ボランティアリーダー（主婦）、PTA関係者など。
ここでは、単なる子育ての先輩、地域のおせっかい屋さんに変身して活動。

< 活動の拠点 >

小学校1階の一室。チーム員や読書ボランティア、地域の方などが常駐。専用のブザーがあり、子どもや保護者、中高生などが気軽に立ち寄れる場所となっている。

< 活動内容 >

- ・ 親子ものづくり教室、料理教室など楽しみながら交流を図る機会の提供
- ・ 読み聞かせのコツなどを学ぶ図書ボランティア養成講座
- ・ 発達障害や児童虐待対応などをテーマにした学習会の実施
- ・ 朝夕の“一声・声がけ”訪問や「だんぼ通信」を届ける活動
- ・ 学校や担任の先生と連携して心配な保護者の対応を検討



親子料理教室

< 効果 >

- ・ 親子で共同作業する楽しさや役立つ自分を発見できた。
- ・ みんなが安心してつぶやける場所、みんなの力が発揮できる場所ができた。
- ・ 短い訪問時間でも回数を重ねることで、学校に足を運ばなかった保護者が「だんぼの部屋」や学校行事に来るようになった。また、校内に設置したことで、子どもの会話から状況理解ができ、学校との信頼関係を築くことができた。
- ・ 1小学校区での実施から市内4小学校区に「だんぼの部屋」拡大

学校は聖地？！

◎まずは学校探検から

- ・ 学校だけでは限界がある
- ・ 学校だけの問題ではない

◎だんぼも協力しようとしたが

- ・ その思いが伝わらず戸惑う

でも・・・子どもたちが学校と家庭とだんぼの部屋をつなげてくれました。

本当は学校も困ってた。でも私たちは気付かなかった学校を聖地にしていったのは私たちかも

☆信頼関係は時間をかけてゆっくりと

(1) 地域人材による家庭教育支援チーム型支援

◆～チームワーク、ネットワーク、フットワークを合い言葉に～
大洲子育てサポートそよ風（愛媛県大洲市家庭教育支援チーム）

< 構成員 >

元教員、元保育士、主任児童委員、人権擁護委員、臨床発達心理士、家庭相談員等

< 活動の拠点 >

小学校図書室内（活動は市内全域）

< 活動内容・効果 >

- ・「チームワーク、ネットワーク、フットワーク」をスローガンに、「乳幼児期から思春期までの相談支援」「関係機関との連携」「予防」の3点に重点を置いて活動
- ・児童館での子育てひろば（ミニ講座や小グループの語り合い）、小学校PTAとの共催による「親のしゃべり場」、保育所や小学校における参加体験型の子育て学習会
- ・子育てひろば等を通じて得られた保護者の悩みを参考に、毎月テーマに応じた「そよ風通信」を発行し、全保育所・幼・小・中学校の全保護者及び関係機関等に配布。
- ・電話相談や個別の要望に応じて場所と時間を設定した対面相談等を週3日実施。
- ・保健センターにおける10ヶ月児育児相談に来なかった家庭に絵本を届ける「ブックスタート訪問活動」を実施し、困難を抱える家庭の早期発見に役立っている。

